

結核屍ノ臟器病變分布ニ關スル統計的觀察

東京慈惠會醫科大學病理學教室(主任 木村教授)

醫學博士 平 塚 隆

醫學士 佐 藤 七 郎

醫學士 山 下 藤 太 郎

内容目次

第一章 緒 言

第二章 結核屍ノ逐齡的觀察

第三章 結核屍ノ病型的觀察

第四章 總括及考按

第五章 結 論

第一章 緒 言

結核ノ臟器病變分布ニ關シ、病理解剖ヲ基礎トスル統計的觀察ノ主ナル者ハ Naegeli, Schlenker, Beitzke, Lubarsch, 大野、内山、山口、田原、前田氏等ノ調査ヲ始トシ、肺結核ニ關シテハ平野、徐氏等、肋膜炎ニ關シテハ永松、倉島、福田氏等、結核性腦膜炎ニ關シテハ Wangenheim, 三浦、橋本氏等、急性粟粒結核症ニ關シテハ Hartwisch 氏ニシテ尙臨牀的基礎ノ下ニ於ケル調査ニ到リテハ枚舉ニ遑アラズ。其極メテ概要トスル所ハ本誌第 13 卷第 4 號ニ於テ著者ノ一人平塚ガ綜説セシ所ナリ。既ニ綜説ニ於テモ記述セル如ク各臟器ヲ主トスル分布狀態ニ關スル調査ハ各地方ニ於テ詳細ナル報告アルモ之ヲ逐齡的ニ調査セル者少シ。コ、ニ於テ余等ハ本教室ニ於テ得タル最近 10 年間ニ於ケル剖檢屍中ヨリ肉眼的ニ結核性病變明カナル場合ヲ結核屍ト認メ逐齡的ニ之ヲ觀察セリ。先ヅ結核屍ノ觀察ニ當リ結核性變化ノ程度又ハ分布領域等ノ關係ニ據リテ一定ノ範圍ニ納メ得ザルヤニ關シ調査セリ。文獻ニ據レバ結核病變ノ占居部位の關係ニ由リテ一定ノ臟器の分類ヲ施シタルハ田原、櫻木、Schubertkarl 氏等ニシテ他ノ學者ノ多クハ重症中等症輕症等ノ程度又ハ進行性結核、陳舊性結核等ノ性狀の關係ヨリ論

ゼシ者ナリ。コ、ニ於テ余等ハ病變ノ程度又ハ性狀の關係ニ立脚セズシテ結核性變化ノ占居部位ヲ主トナシ次ノ 7 型ヲ假ニ分類セリ。即チ

I. 肺結核型 重症中等症輕症著シクハ増殖型滲出型硬化型等ヲ論ゼズ肺ニ於ケル結核性病變著明ニシテ他臟器ノ病變ハ之ニ比シ極メテ輕症若シクハ續發性ナル事明カナル場合。

II. 腸結核型 原發性腸結核若シクハ原發性又ハ續發性ナルカ不明ナル場合ニ於テモ腸間膜淋巴腺結核竝ニ腹膜ノ炎症性變化著明ニシテ他臟器ノ病變極メテ輕症ナル場合。

III. 肺及腸結核型 肺結核型及腸結核型ノ混合型。

IV. 漿膜結核型 腹膜肋膜心囊腦膜等ニ於ケル漿膜系統ノ變化ヲ主體トシ肺腸其他ノ内臟結核皆無若シクハ輕症ナル場合。

V. 急性粟粒結核型 全身諸臟器ニ稍々平等ナル粟粒結核ヲ發現セシ場合。

VI. 臟器結核型 泌尿生殖器腦骨關節結核ヲ主體トスル場合。

VII. 全身結核型(混合型) 肺及腸結核、漿膜結核、臟器結核等ノ種々ナル配合ニ於テ全身のニ廣汎ナル分布狀態ヲ示セル場合。

以上ノ分類ハ臟器病變分布ノ占居部位の關係ヨ

り出發セル者ニテ病變ノ程度ニ非ザルヲ以テ初期變化群以上ノ變化ハ何レカノ分類ニ加ヘ得ラルベシ。即チ胃癌ノ屍體ニ於テ右ノ葉ニ陳舊性結核竈アリタル場合ハ肺結核型ニ算入セラルガ如シ。

第二章 結核屍ノ逐齡的觀察

如何ナル者ヲ結核屍ト認メシヤニヨリ統計上大ナル相違ヲ來ス事タルヤ自明ノ理ナリ。既ニ Naegeli ノ如キハ普通ノ剖檢記事ニ於テ屢々輕微ナル結核性病變ノ閑却セラレタルヲ指摘シ且全身諸部殊ニ淋巴腺ヲ細切シ幽微ナル結核竈ニ到ル迄檢出ニ勉メタル結果、30 歳以上ノ成人ニ於テハ凡ソ其全屍數ニ於テ身體ノ何處ニカ、結核ヲ認メザルナシトシ、尙其目的ヲ以テスルト否トニヨリ結核罹患百分率ニ於テ 97%ト 40%トノ差アルヲ見タリトセリ。

余等ハ結核屍ノ條件トシテ先ヅ死因ヲ結核性病變ニ基因シ得ベキ場合ヲ主眼トシ死因ヲ他ニ求ムベキ場合ニアリテモ結核性病變明カニシテ初期變化群以上ノ病變タル場合ハ之ヲ結核屍ト認メ調査材料トセリ。而シテ初期變化群ノ部分症候タル肺門部乃至腸間膜淋巴腺結核ノミニテ他ノ變化ヲ認メザル如キ場合ハ余等ノ剖檢屍ノ多數ノ場合ニ認メタルヲ以テ一切除外シ剖檢上結

尙如上ノ分類ノ外ニ結核屍ヲ逐齡的ニ觀察セシ諸家ノ說ヲ参照シ 14 歳迄ヲ小兒期、15—25 歳ヲ青年期、26—50 歳ヲ中年期、51 歳以上ヲ老齡期トニ分類シ、各期ニ於ケル病型の觀察ヲナセリ。

核性病變ニテ付レタル屍體ハ如何ナル像ヲ呈スルモノナリヤノ大體ノ觀察ニ止メタリ。

以上ノ條件ノ下ニ解剖屍 1480 例 (♂ 751 例♀ 729 例) ニ就テ見ルニ結核屍ノ逐齡的竝ニ性的頻度ノ關係ハ第 1 表ノ如シ。

余等ノ調査ニ據ルニ全結核屍 (349 例) ハ全解剖屍 (1480 例) ニ對シ 23.6%ニシテ Naegeli (79.9%), Schlenker (66%), Beitzke (51.4%), Lubarsch (60.6%), 藤浪 (41.0%), 平野、徐 (43.4%), 田原 (41.074%), 山口 (32.2%), 杏掛 (48.3%), 倉島、福田 (48.7%), 内山 (47.5%), 木村 (男) (48.9%), 前田 (34.03%), 永松 (34%) 氏等ノ何レノ成績ヨリモ低率ニシテ大野 (27.1%), 岡村 (24.5%) 氏等ノソレニ極メテ接近セル數字ヲ示セリ。

次ニ各期ニ於ケル頻度ヲ見ルニ小兒期ニ於ケル結核屍 (50 例) ハ同期解剖屍 (184 例) ニ對シ 27.1%ニシテ Burkhardt (40.0%), Harbitz (41.0%) 佐藤 (36.85%), 甲斐 (44.28%), 木村 (男) (45.75%) 氏等ヨリ低ク、田原 (28%), Ipsen (27.4%) 氏等ノ成績ニ一致シ、Lubarsch (17.1%), Beitzke (13.6%), Hand (11.2%), 大野 (17.6%) 氏等ノ成績ニ優レリ。青年期結核ハ 50.1%、中年期結核ハ 19.6%、老齡期結核ハ 9.2%ニシテ青年期以上即チ 14 歳以上ヲ成人期結核トスレバ成人期結核屍 (289 例) ハ成人解剖屍 (1296 例) ニ對シ 22.3%ニ相當ス。而シテ Lubarsch (16 歳以上 62.4%), Naegeli (18 歳以上 90.0%), 杏掛 (18 歳以上 56.1%), 倉島、福田 (21 歳以上 48.9%), 大野 (30%), 田原 (45.4%) 氏等ノ何レノ成績ヨリモ少數ナリ。此相違ハ恐ラク前述ノ如ク結核屍ト認メタル條件

第 1 表 結核屍ノ頻度表

	性	解剖屍數	結核屍數	頻度
小兒期 (14 歳以下)	♂	105	23	21.9%
	♀	79	27	34.1%
	計	184	50	27.1%
青年期 (15—25 歳)	♂	171	83	48.5%
	♀	110	57	52.7%
	計	281	140	50.1%
中年期 (26—50 歳)	♂	355	77	21.6%
	♀	235	39	10.9%
	計	590	116	19.6%
老齡期 (51 歳以上)	♂	235	23	9.7%
	♀	120	10	8.3%
	計	355	33	9.2%
	總計	1480	349	23.6%

ニモ據ル事多大ナルベシト思考ス。
次ニ全結核屍 349 例ノ年齡的性的頻度ノ關係ハ次表ノ如シ。

第 2 表 結核屍年齡的性的頻度表

	年 齡	♂	♀	計	各期結核屍數	全結核屍ニ對スル頻度
小兒期	1—6歲	14	15	29	50	14.3%
	7—14歲	9	12	21		
青年期	15—20歲	40	36	76	139	40.1%
	21—25歲	42	21	63		
中年期	26—30歲	37	22	59	126	36.1%
	31—40歲	30	13	43		
老齡期	41—50歲	10	4	14	33	9.4%
	51歲以上	23	10	33		

上表ニ據リ結核屍ノ年齡的頻度ハ青年期ノ前半 15—20 歲ニ最も多ク後半 21—25 歲之ニ次ギ中年期ノ 26—30 歲、31—40 歲、小兒期ノ前半 1

—7 歲ノ順ナリ。男子又ハ女子ニ於テモ稍々同様ノ關係ヲ認ムルモ男子ハ青年期ノ後半 21—25 歲、女子ハ青年期ノ前半 15—20 歲ニ於テ最も多數ニ認メタリ。全般トシテハ男子 (215 例) ハ女子 (134 例) ヨリ多シ。文獻ニ徵スルニ大野氏ハ 19—20 歲、倉島、福田氏等ハ 11—20 歲、今氏ハ 17—20 歲、山口氏ハ 19—21 歲、前田氏ハ 20 年代、田原氏ハ 16—30 歲ニ最も多ク認メタリトシ、余等モ亦 15—30 歲ニ多ク就中 15—20 歲ニ最も多シト言ハントス。山口氏ハ男性ニ於テハ 21—24 歲ニ多ク女性ニ於テハ 15—19 歲ニ多シトセリ。余等ノ成績モ亦稍々同様ナリ。次ニ各期ニ於ケル結核屍ノ全結核屍ニ對スル頻度ハ小兒期 14.3%、青年期 40.1%、中年期 36.1%、老齡期 9.4%ニシテ青年期最も多ク中年期之ニ次ギ小兒期老齡期ノ順ナリ。

第三章 結核屍ノ病型的觀察

第一節 肺結核型

肺ニ於ケル重症中等症輕症等ノ程度又ハ増殖、滲出、硬化型等ノ性狀ヲ論ゼズ結核性病變著明ニシテ他臟器ノ病變ハ之ニ比シテ極メテ輕度若シクハ續發性病變ナル事明カナル者即チ喉頭又ハ腸管ノ結核性病變ノ程度又ハ分布ノ輕度ナル者ハ續發性ト思考シテコノ病型ニ包含セシメタリ。其概要ハ第 3 表ノ如シ。表中、結節狀結核ノ意味ハ粟粒結核結節及種々ノ大サノ集成結核ニシテ増殖性限局性結核竈ナリ。

第一項 小兒期

1—6 歲ニ於テハ男兒 5 例、女兒 8 例ナリ。男兒ハ各例共結節狀結核ヲ認メ空洞化ハ 1 例 (20%) ノ左肺ニ認メタルノミ。然ルニ乾酪性肺炎ハ 2 例 (40%) ノ兩肺ニ認メタリ。其他喉頭腸管肝脾ニ極メテ輕微ノ變化ヲ認メタリ。而シテ稍々著シキ變化ハ淋巴腺結核ニシテ就中肺門部淋巴腺ノ腫脹ハ各例共顯著ナリ。女兒ハ 8 例中 5 例ハ兩肺ニ結節狀結核ヲ認ムルモ空洞化ハ左肺 2 例 (25%)、右肺 1 例 (12.5%) ノミ。然ルニ乾酪性肺炎ハ左肺 3 例 (37.5%)、

右肺 4 例 (50%)ニ認メタリ。其他腸管漿膜腎ニ輕微ノ變化ヲ認メタリ。而シテ淋巴腺結核就中肺門部淋巴腺ノ腫脹ハ 8 例中 6 例ニ於テ特ニ顯著ナリ。

7—14 歲ニ於テハ男兒 4 例、女兒 7 例ナリ。

男兒ハ各例共、結節狀結核ヲ認メ空洞化ハ兩肺ニ於テ 2 例 (50%) 宛認メ乾酪性肺炎ハ兩肺ニ於テ 1 例 (25%) ノミナリ。其他腸管漿膜腎肝脾ニ輕微ノ變化ヲ認メタリ。而シテ淋巴腺結核就中肺門部淋巴腺ノ腫脹ハ 4 例中 2 例ニ於テ特ニ顯著ナリ。

女兒ハ各例共結節狀結核ヲ認メ空洞化ハ左肺 4 例 (75.1%) 右肺 3 例 (42.8%) 乾酪性肺炎ハ兩肺ニ於テ各々 1 例 (14.2%) 宛ナリ。其他腸管漿膜腎肝脾ニ輕微ノ變化ヲ認メタリ。而シテ淋巴腺結核就中肺門部淋巴腺 3 例、腸管膜淋巴腺 1 例ノ腫脹ハ特ニ顯著ナリ。

要之小兒期ニ於テ肺ニ於ケル結節狀結核乾酪性肺炎乃至空洞化ヲ主トスル結核型ヲ認メ 1—6 歲ニ於テハ男女兒共乾酪性肺炎ハ空洞性變化ヨリ著明、7—14 歲ニ於テハ男女共空洞性變化ハ

31—40歳ニ於テハ男子19例女子8例ナリ。男子ハ稍々全數ニ於テ結節狀結核ヲ認メ空洞化ハ左側12例(63.1%)右側14例(37.6%)、乾酪性肺炎ハ左側6例(31.5%)右側4例(21%)ナリ。而シテ其全部ニ於テ兩側肋膜炎ヲ合併シ盲腸部12例迴腸4例大腸4例ノ結核性潰瘍ヲ隨伴セリ。

女子ハ全數ニ於テ結節狀結核ヲ認メ空洞化ハ左側5例(62.5%)右側4例(50%)乾酪性肺炎ハ左側5例(62.5%)右側1例(12.5%)ナリ。而シテ全例ニ於テ兩側肋膜炎ヲ認メ迴盲部潰瘍2例限局性腹膜炎5例廣汎性増殖性腹膜炎1例ノ併發ヲ見タリ。

41—50歳ニ於テハ男子9例女子3例ナリ。男子ハ各例共結節狀結核ヲ認メ空洞化ハ左側3例(50%)右側5例(83.3%)、乾酪性肺炎ハ左側ニナク右側ニ5例(83.3%)認メタリ。而シテ喉頭結核2例盲腸部潰瘍3例兩側肋膜炎5例廣汎性増殖性腹膜炎5例ノ併發ヲ見タリ。

女子ニ於テハ稍々全數ニ於テ結節狀結核ヲ認メ同時ニ空洞性變化モ認メタルモ乾酪性肺炎ハ左側ニナク右側2例(66.6%)ニ認メタリ。而シテ兩側肋膜炎全數盲腸部潰瘍1例増殖性腹膜炎1例ノ併發ヲ認メタリ。

要之中年期ニ於ケル肺結核型ハ男子ハ女子ヨリ著シク多數ナリ。而シテ26—40歳ニ於テ男子女子共空洞化ハ乾酪性肺炎ヨリ多シ。41—50歳ニ於テハ男子女子共左側ニハ乾酪性肺炎ナク空洞化ノミ右側ニハ兩種變化ヲ均等ニ認メタリ。

第四項 老齡期

50歳以上ニ於テ男子17例女子7例ヲ認メ癌腫其他ノ死因ニヨリテ仆レタル者男子7例女子3例ナリ。即チ約其半數ハ肺ニ於ケル結核性變化著明ニシテ漿膜竝ニ腸管内ノ變化稍々認ムベキ者アルニ關ラズ結核性變化以外ノ死因ニテ仆レタル者ナリ。

男子17例中結節狀結核ハ左側13例(76.4%)右側15例(88.2%)、空洞化ハ左側5例(29.3%)右側6例(35.2%)、乾酪性肺炎ハ左側7例(41.1

%)右側4例(23.5%)、石灰化硬化ハ兩側共3例(17.6%)ナリ。而シテ盲腸部潰瘍6例兩側肋膜炎14例増殖性腹膜炎2例滲出性腹膜炎2例ヲ併發セリ。

女子7例中結節狀結核ハ左側6例右側5例空洞化ハ左側4例(57.1%)右側2例(28.5%)乾酪性肺炎ハ左側2例(28.5%)右側ニハ認メズ。石灰化硬化ハ左側ニ於テ1例ヲ認ム。而シテ腸管ノ結核性潰瘍竝漿膜結核ノ併發ヲ少数例ニ於テ認メタリ。

要之老齡期ニ於ケル肺結核型ハ男子ハ女子ヨリ著シク多數ナリ。而シテ兩肺全葉ニ於テ病變ヲ認メザル者アリ。空洞化乾酪性肺炎ハ著シク少ク屢々石灰化硬化ヲ證シ特ニ男子ニ著明ナリ。

第二節 腸結核型

腸管ニ於テ初感染ヲ認メタル場合ニ病理解剖的ニハ腸管ニ於ケル結核性變化顯著ナル場合及腸ニ潰瘍ヲ殘サズシテ腸間膜淋巴腺ノ結核性變化強クシテ所謂腹膜ノ結核性變化強キ場合ヲ思考シ得ベキモ後者ハ余等ノ分類ニ據レバ漿膜結核型ニ屬スベキヲ以テ暫ク措キ腸ニ結核性變化最モ強キ結核屍ヲ網羅スルコト、ス。其概要ハ第4表ノ如シ。

4表ニ示ス如ク本型ニ屬スベキ症例ハ小兒期5例青年期8例中年期5例即チ18例ニシテ老齡期ニ認メズ。

第一項 小兒期

1—6歳ニ於テ5歳6歳ノ女子ナリ。何レモ盲腸部潰瘍著明ニシテ迴腸空腸ニ波及スルモ大腸ニ認メズ穿孔セル者ナシ。兩者共兩肺ニ輕度ナル結節狀結核ヲ認メ1例ニテハ右側腎膀胱輸尿管ニ結核性變化ヲ認メタルモ何レモ輕症ニテ續發性變化ナル事明カナリ。

7—14歳ニ於テ男兒ハ8歳1例女兒ハ9歳13歳各々1例ニ認メ何レモ盲腸部ノ變化最モ著明ニシテ迴腸空腸之ニ次ギ大腸最モ輕度ナリ。他臟器ノ變化トシテ肺ニ於テ結節狀結核、腦膜、膀胱、輸尿管ニ於テ結核性變化ヲ認メタル者アルモ何レモ輕度ナリ。即チ是等ノ症例ハ腸管ニノ

第4表 腸結核型

年 齡	性 別	肺 結 核		喉 頭		肺 門 部 淋 巴 腺 結 核		腸 結 核		漿 膜 結 核		臟 器 結 核				備 考						
		左	右	側	側	左	右	左	右	心 囊 炎	肋 膜 炎	局 限 型	廣 汎 型	腹 膜 炎	膜 炎	肝 結 核	脾 結 核	骨 結 核	關 節 結 核			
11	♂																					
6	♀																					
7	♂																					
14	♀																					
15	♂																					
20	♀																					
21	♂																					
25	♀																					
26	♂																					
30	♀																					
31	♂																					
40	♀																					
41	♀																					
50	♀																					

老齡期 = 認めズ

ミ結核性變化強クシテ他臟器ニ全く變化ヲ缺クト言フニ非ザルモ其病變ノ程度ヨリ主トシテ腸管ノ結核性變化ヲ主要變化トシ他臟器ノ變化ハ續發性ノ變化ト見做スヲ得ベシ。

第二項 青年期

15—20 歳ノ間ニ於テ男 1 例女 5 例ニシテ何レモ盲腸部ノ結核性變化最モ顯著ニシテ廻腸空腸大腸之ニ次グ。肺ニ於ケル變化ハ輕度 3 例侵サレザル者 2 例漿膜殊ニ肋膜ニハ何レモ限局性又ハ陳舊性結核竈ヲ認メシムルノミ。腹膜ハ限局性 1 例増殖型 1 例滲出型輕度 2 例唯 1 例ニ於テ腦實質ニ陳舊性結核竈ニ胸腺周圍淋巴腺ノ乾酪化ニ陥リタル者アリタルモ何レモ陳舊ニシテ腸管ニ於ケル結核性變化ガ最モ顯著ナリ。其他腸管膜淋巴腺ノ乾酪性變化著明ナル者 4 例アリ。

21—25 歳ノ間ニ於テ男子 2 例ノミ。何レモ盲腸部ノ變化最モ著明ニシテ廻腸空腸之ニ次ギ大腸ニハ認メズ。肺ニ於テ 1 例ハ兩側肺尖ニ結核結節ヲ認ムル外所見ナシ。漿膜ニ於テ兩側肋膜 1 例増殖滲出性腹膜炎 1 例滲出型 1 例ナリ。

第三項 中年期

26—30 歳ノ間ニ於テ男子 1 例、女子 2 例、31—40 歳ノ間ニ於テ男子 1 例ニシテ何レモ盲腸部ノ變化強クシテ大腸廻腸空腸之ニ次ギ増殖型又ハ滲出型ノ腹膜炎ヲ伴ヒリ。又何レモ腸間膜淋巴腺ノ腫脹著明ナリ。41—50 歳ノ間ニ於ケル男子ニ於テハ盲腸部ノ變化顯著ニシテ廻腸穿孔シ増殖型腹膜炎ヲ發セル場合ニシテ他臟器ニ全く變化ヲ認メザリキ。

要之腸ニ於ケル結核性變化強ク肺ノ變化ハ輕度又ハ漿膜結核ハ續發性變化ナル事明カナル病型ヲ認メ 5 歳ノ女子ヨリ 40 年代ニ於テ 18 例即チ全結核屍ニ對シ 5.1%ヲ認メ恐ラクハ原發性腸結核タルベキヲ肯定セラル可ク、少ク共死因トシテハ腸結核ヲ重要視ス可キ場合アル事明ラカナリ。

第三節 肺及腸結核型

結核ノ感染ハ氣道感染ノミナラズ食物感染稀ニ

接觸ニヨル皮膚感染(比企氏報告)等ヲ種々ナル機會ニ於テ獲得シ得可キヲ以テ肺結核型及腸結核型ハ混合型トシテ共存シ得可キ可能性アルモ最初ヨリ此兩部位ニ略々時ヲ同フシテ原發性ニ感染セル場合ヨリモ原發性肺結核ノ成立後肺ノ病竈ヨリ二次的ニ結核菌ガ消化管中ニ嚥下セラレテ感染セラレタル場合ハ多數ナル可シ。勿論之ト同時ニ漿膜結核又ハ臟器結核ノ混合型モアリ得ベキモ是等ハ全身結核型トシテ別ニ論ズベキヲ以テコ、ニハ肺及腸ノ結核性變化ガ著明ナル場合ヲ肺及腸結核型トシテ記述スベシ。

其概要ハ第 5 表ノ如シ。

5 表ニ示ス如ク此型ニ屬スル症例ハ青年期及中年期ヲ主トシ小兒期老齡期ニ認メズ。青年期ニ於テハ 15—20 歳ノ間ニ男子 5 例女子 7 例、21—25 歳ノ間ニ於テ男子 6 例女子 3 例ヲ認メタリ。各例共肺ニハ空洞化乾酪性肺炎結節狀結核等ヲ認メ肺結核型トシテノ所見ヲ有シ、腸管ニ於テハ盲腸部廻腸空腸大腸ニ於ケル結核性潰瘍ヲ認メ同時ニ廣汎性増殖型若シクハ滲出型ノ腹膜炎ヲ伴ヒ腸結核型トシテノ所見ヲ併有ス。

中年期ニ於テハ 26—30 歳ノ間ニ於テ男子 1 例女子 1 例、31—40 歳ノ間ニ於テ男子 2 例ニテ前期ノ者ト大差ナシ。

要之剖檢上肺結核型竝ニ腸結核型ノ併立スル如キ場合ヲ認メ青年期最モ多ク中年期ノ前半之ニ次ギ小兒期老齡期ニハ認メズ。而シテ其頻度ハ全結核屍ニ對シ 7.1%ナリ。

第四節 漿膜結核型

腹膜肋膜心囊腦膜等ノ漿膜ニ於ケル結核性變化中腦膜ニ來ル場合ハ臨牀上結核性腦膜炎トシ主トシテ急性粟粒結核症ノ一分症トシテ來ルガ故ニ比較的慢性ノ經過ヲ取レル症例ヲ本項ニ於テ論ズベシ。其概要ハ第 6 表ノ如シ。

第一項 小兒期

1—6 歳ノ間ニ於テ 4 歳男兒竝ニ 10 箇月女兒 1 例ニ認メ前者ハ小腦弧ニ結核ヲ有シ結核性腦膜炎ヲ起セル者ニシテ腦膜結核ヲ認メラレ他臟器ニ變化ナシ。後者ハ兩側肋膜竝ニ著明ナル心囊

第 5 表 肺 及 腸 結 核 型

年 齡	性 及 例 數	肺 結 核		喉 門		腸 結 核		漿 膜 結 核				臟 器 結 核					備 考																						
		左 側		右 側		結 核		淋 巴 腺 結 核		空 腸 潰 瘍		迴 腸 潰 瘍		盲 腸 潰 瘍		大 腸 潰 瘍		穿 孔 炎		心 肋 炎		腹 膜 炎		腹 腔 炎		尿 器		生 殖 器		肝 脾 骨 髓 結 核									
		空 洞 化	乾 酪 性 肺 炎	結 節 狀 結 核	石 灰 化 硬 化	空 洞 化	乾 酪 性 肺 炎	結 節 狀 結 核	石 灰 化 硬 化	結 核	淋 巴 腺 結 核	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍	潰 瘍								
15	♂ 5 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
20	♀ 7 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
21	♂ 6 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
25	♀ 3 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
26	♂ 1 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
30	♀ 1 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
31	♂ 2 例	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
40	♀																																						
41	♂																																						
50	♀																																						

小兒期=認めメズ
老齡期=認めメズ

炎ヲ起シタル場合ニテ肺腸ニ病變ノ認メラレザリシ場合ナリ。

7—14 歳ノ間ニ於テ 8 歳男兒竝ニ 10 歳女兒ニシテ前者ハ輕微ナル肺ノ變化ヲ有スルモ増殖型腹膜炎竝ニ肋膜炎ノ所見ヲ認メ後者ハ右肺ニ輕微ナル結核アリテ腦膜炎ヲ起シ腦膜結核ノ所見顯著ナル場合ナリ。

第二項 青年期

15—20 歳ニ於テハ男子 6 例、女子 7 例ナリ。是等ノ症例中女子 2 例ハ顯著ナル腹膜結核竝ニ腸管ニ輕度ノ變化アリタル外他臟器ニ變化ヲ認メザルモ其他ノ例ニアリテハ肺腸腎肝脾ニ多少ノ結核性變化ヲ認メタリ。男子 6 例中肋膜腹膜 5 例、肋膜腹膜心囊 1 例ノ配合ヲ示シ、女子 7 例中腹膜ノミ 2 例肋膜腹膜 4 例心囊(絨毛心)肋膜腹膜 1 例腹膜肋膜 1 例ニシテ漿膜中最モ多ク變化ヲ來スハ腹膜ニシテ増殖著明ナル腹膜結核トシテノ所見ヲ認ムルモ稀ニ心囊ニ於テ所謂絨毛心トシテノ所見ヲ認ムル者アリ。

21—25 歳ニ於テハ男子 10 例、女子 4 例ナリ。肺及腸腎肝脾ノ變化ハ極メテ輕度ナルモ認メ全ク之ヲ缺ク者ハ男子ニ於テハ 2 例女子ニ於テ 1 例ニテ恐ラク腸管膜淋腺結核ヨリ原發セシ場合タルベキヲ思考セシメラル。而シテ男子 10 例中腹膜肋膜 9 例、心囊肋膜腹膜 1 例、女子 4 例中腹膜肋膜 4 例ニシテ其多クハ腹膜ノ増殖性變化顯著ナリ。

第三項 中年期

26—30 歳ニ於テハ男子 3 例、女子 2 例ニシテ男子女子共ニ腹膜肋膜ニ於ケル變化ナリ。

31—40 歳ニ於テハ男子 3 例、女子 3 例ニシテ男子ハ 3 例共腹膜肋膜、女子ノ 2 例ハ腹膜肋膜、1 例ハ腹膜肋膜腦膜ニ於ケル變化ナリ。

41—50 歳ニ於テハ男子 2 例ノミニシテ 1 例ハ腹膜肋膜ニ於ケル漿膜結核竝ニ肝結核著明ナリ。他ノ 1 例ハ兩側肋膜竝ニ心囊結核著明ナリ。而シテ輕度ナル肺結核竝ニ屢々著明ナル腸間膜淋腺結核ヲ認メタル外他臟器ニ著變ナシ。

第四項 老齡期

男子 2 例女子 2 例ニシテ就中男子 1 例ニ於テ肺及腸ニ變化ヲ有スルモ増殖滲出著明ナル腹膜結核竝ニ兩側肋膜炎ヲ伴ヒ加フルニ著明ナル肝結核ヲ呈セリ。而シテ其他ノ 3 例ニアリテハ肺腸ノ變化ナク肋膜腹膜ノ變化ノミナリ。

要之各期ニ於ケル漿膜結核型ハ總數 48 例ニシテ全結核屍ニ對シ 13.7% ナリ。而シテ青年期 27 例中年期 13 例小兒期老齡期各 4 例ニシテ青年期最モ多ク且其後半ニ於テ多キガ如シ。各期ヲ通ジ腹膜肋膜ニ於ケル變化ハ殆ド各例ニ於テ認メ心囊結核 6 例腦膜結核ハ 4 例ナリ。而シテ各漿膜ニ於ケル配合ノ狀態ハ顯著ナル心囊結核アル場合ハ肋膜腹膜ヲモ隨伴スルモ就中肋膜ノ合併ヲ須要トスルガ如シ。假令小兒期前半ノ女子中年期末期ノ男子ニ見タル如シ。肋膜腹膜ハ多クノ場合共存シ殊ニ腹膜ニ於テ多クハ増殖顯著ナル場合ヲ認メ中年期ニ見ル如ク腸間膜淋腺結核ノ顯著ナル腫脹ヲ認メタリ。又増殖著明ナル腹膜結核ニ於テ肝結核著シキ者 2 例ヲ認メタリ。腦膜結核ハ比較的少數ニシテ恐ラク腦膜ニ來ル場合ハ主トシテ急性粟粒結核症トシテ來ル場合ニシテ余等ノ所謂漿膜結核型トシテハ主トシテ腹膜ヲ中心トシテ隣接漿膜ニ於テ逐次結核性變化ヲ認メ得ルガ如シ。

第五節 急性粟粒結核型

胸管結核、乾酪性淋腺、肺内崩壞竈、血管内膜結核等ヨリ結核菌ガ短時日中ニ比較的大量ニ血行ニ入り所謂血行性接種ヲナセル時ニ全身諸臟器竝ニ漿膜系統ニ粟粒結核ヲ生ズル場合ヲ包含シ臨牀上屢々結核性腦膜炎トシテ最後ノ轉歸ヲ示ス者多ク結核性腦膜炎ハ其一分症トモ見ナスベキ者ナリ。余等ノ得タル材料ニ就テ其所見ヲ第 7 表ニ示スベシ。

7 表ノ如ク小兒期及青年期ノ前半ニ認メ中年期老齡期ニ認メズ。

1—6 歳ニ於テハ男子 8 例女子 4 例ニシテ各例共兩肺ニ於テ粟粒結核ヲ有シ男子 8 例中腦膜炎 7 例肋膜炎(左側 3 例右側 2 例)ノ外ニ腦結核 2

第 7 表 急性粟粒結核型

年 齡	性 及 例 數		肺 結 核				喉 頭 結 核				肺 門 部 淋 巴 腺 結 核		腸 間 膜 淋 巴 腺 結 核		腸 結 核				漿 膜 結 核			臟 器 結 核												
	左	右	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側	側
小 兒 期	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 3 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例	♂ 8 例	♀ 4 例	♂ 1 例	♀ 1 例
1 — 6 歲	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
7 — 14 歲	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
15 — 20 歲	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
21 — 25 歲	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

中年期及老齡期ニ認メズ

例ヲ有シタリ。女子 4 例中腹膜炎 1 例アリタルモ腦膜炎ノ所見特ニ著明ナル者 3 例アリ。

7—14 歳ニ於テハ男子女子各々 1 例ニシテ兩者共兩肺ニ粟粒結核ヲ認メ腹膜ニ變化ナカリシモ片側ノ肋膜炎ニ腦膜ニ粟粒結核ヲ認メタリ。

15—20 歳ニ於テ男子 3 例女子 1 例ニシテ肺肋膜炎腹膜炎ニ腎肝脾ニ粟粒結核ヲ認メ殊ニ腦膜ニ於テ著明ナリ。

20 歳以後ノ者ニ於テ全身結核ヲ有シ其上ニ急性粟粒結核ヲ併發シ腦膜ニ於ケル變化著明ナルモノアレドモ全身結核型ニ算入セルヲ以テ中年期以後ニ於テハ定型ノ急性粟粒結核型ヲ認メズ。之ニ據リテ本型ハ幼年者ニ認メ余等ノ場合ハ生後 5 箇月ヨリ證シ各例共腦膜ニ於ケル變化強ク所謂三浦、橋本博士等ガ 13 歳以上ノ者ニ於テ腦膜炎型粟粒結核ト稱セル所見ニ一致ス。發現率ハ Hartwisch 氏ノ如ク 2—6 歳ノ者ニ多ク 7—14 歳ニ於テ漸減シ 15—20 歳ニ於テ稍々認メタリ。

要之急性粟粒結核型ハ全數 18 例ニシテ全結核屍ニ對シ 5.1%ニシテ小兒期ニ於テ 14 例全數ニ對シ 67.2% 青年期ニ於テ 4 例 22.2%ナリ。而シテ兩肺並ニ諸他臟器ニ於ケル粟粒結核並ニ漿膜炎ニ腦膜ニ於ケル粟粒結核顯著ニシテ臨牀上結核性腦膜炎ノ所見ヲ呈シ所謂腦膜炎型粟粒結核ノ所見ヲ認ム。

第六節 臟器結核型

Ranke ニ據ルニ結核ノ初感染ハ第一期即チ初期變化群トシテ小兒期殊ニ 2—8 歳ニ起ル事多ク、第二期即感染セシ個體ノ結核菌ニ對スル抵抗力ガ下リ所謂過敏狀態ニヨリテ血行性結核ヲ起ス。即チ個體ノ免疫ガ下降シ組織ニ結核菌ガ附著シ易クナリ血行性散布結核ヲ起ス。第三期ニハ相對免疫ガ成立シ孤立性ノ臟器結核トナルト言フ。余ハ後述スル如ク臟器結核ハ初感染部位タル肺腸又ハ其ニ續發セル漿膜系統ニ於ケル結核性變化ト伴ヒ所謂全身結核型トシテ認メラル、モ是等肺腸漿膜ノ結核性變化輕度又ハ殆ド認メラズシテ臟器結核ノ甚ダ顯著ニシテ屢々

死因タル場合ヲ認ム。之余等ガ殊ニ臟器結核型トシテノ病型ヲ分類セル所以ナリ。其概要ハ第 8 表ノ如シ。

小兒期ニ於テ 1—6 歳ニハ認メズ。7—14 歳ニ於テ骨結核 1 例關節結核 2 例ナリ。右肺ニ於テ輕度ノ結核アル者 1 例輕度ノ肋膜炎ヲ認メタル者 2 例其他ニ結核性變化ナシ。

青年期ニ於テ 15—20 歳ニ於テ兩側化膿性頸腺結核 1 例子宮卵巢輸卵管結核並ニ増殖型腹膜炎ヲ伴フ者 1 例ナリ。21—25 歳ニ於テハ骨結核顯著ニシテ右側胸膈ヲ伴フ女子 1 例ナリ。

中年期ニ於テハ 25—30 歳ノ間ニ於テ男子 1 例腦骨關節結核ヲ伴ヒ、女子 1 例腎骨結核ヲ認メ、31—40 歳ニ於テハ男子 2 例何レモ腎膀胱輸尿管結核、女子 2 例ハ腎臟子宮結核ヲ認メ、41—50 歳ニ認メズ。老齡期ニ於テ骨結核 1 例ニシテ中年期以降ニ於テハ肺及漿膜ニ於ケル輕度ノ變化ヲ隨伴セリ。

要之臟器結核型トシテ 7 歳以降ノ結核屍ニ於テ 14 例即チ全結核屍ニ對シ 4.5%ヲ認メ、腎、膀胱(各 5 例)、骨、關節、輸尿管(各 4 例)、子宮(3 例)、卵巢、輸尿管(各 2 例)、腦、頸腺(各 1 例)ノ顯著ナル結核性變化ヲ以テ付レタル症例ヲ認メ肺及漿膜ニ多少結核性變化ヲ隨伴スルモ主要死因ハ是等臟器結核ニ據ル事明カナル場合アリ。

第七節 全身結核型(混合型)

肺結核腸結核漿膜結核並ニ臟器結核等ガ種々ナル配合ニ於テ發生シ臨牀上極メテ慢性ノ經過ヲ示ス場合ヲ全身結核型又ハ混合型トシテ他ノ病型ヨリ分類スルニ第 9 表ニ示ス如キ症例ヲ認メ得タリ。

9 表ニ示ス如ク小兒期ニ認メズ。之小兒期ニ於ケル此型ノ結核ハ急性全身粟粒結核ノ項下ニ包括セラレアリナリ。

青年期ニ於テ 15—20 歳ノ間ニ於テ男子 3 例女子 1 例ニシテ 21—25 歳ニアリテハ男子 4 例女子 9 例ナリ。青年期ノ前半ニ於テハ肺結核型漿膜結核型臟器結核型ノ混合型 2 例、肺結核臟器

結核型ノ混合型 2 例、後半ニ於テハ肺結核型漿膜結核型臟器結核型ノ混合型 6 例肺結核型臟器結核型ノ混合型 7 例、肺結核型漿膜結核型ノ混合型 1 例ナリ。從テ是等ノ變化ハ之ヲ全身結核型ト稱スルヨリモ混合型トミタルガ或ハ理解シ易カル可シト思フ。

中年期ニ於テハ 26—30 歳ノ間ニ於テハ男子 8 例女子 4 例 31—40 歳ノ間ニ於テハ男子ノミ 3 例 41—50 歳ノ間ニ於テハ男子女子各 1 例ナリ。本期ヲ通ジ、總數 17 例ニシテ肺結核型漿膜結核型臟器結核型ノ混合型 16 例、肺結核型臟器結核型ノ混合型 1 例ニシテ男女又ハ年齢ニヨリテ大差ナシ。

老齡期ニ於テハ男子ニノミ 4 例認メタリ。而シテ肺結核型漿膜結核型臟器結核型ノ混合型 2

例、肺結核型臟器結核型ノ混合型 1 例、肺結核型漿膜結核型ノ混合型 1 例ナリ。

以上各期ヲ通ジ腸結核ヲ認メザルハ青年期 17 例中 5 例中年期 17 例中 1 例ニシテ他ノ多クハ所謂腸結核型又ハ之ニ近キ程度ノ結核性變化ヲ認メタリ。

要之全身結核型ハ青年期以後ノ結核屍ニ於テ認メ總數 38 例全結核屍ニ對シ 10.3% ナリ、而シテ青年期中頃即チ 20 歳頃ヨリ増數シ 30 歳頃ヨリ漸減シ青年期ニ於テハ肺結核型漿膜結核型臟器結核型ノ混合型竝ニ肺結核型臟器結核型ノ混合型相伯仲シ、中年期ニ於テハ毎常肺結核型漿膜結核型臟器結核型ノ混合型ニシテ老齡期ニ於テモ亦コノ種ノ病型最モ多キガ如シ。

第四章 總括及考按

前述ノ所見ヲ總括スルニ大體次表ニ納メ得可シ。

第 10 表 結核屍ノ逐齡的病的の頻度表

期	年 齡	性	肺結核型	腸結核型	肺結核及核腸型	漿結核膜型	急結核性粟粒型	臟結核器型	全結核身型	計	合計	各屍期結核數	全ニ對シ
小兒期	1—6 歳	♂	5			1	8			14	29	50	14.3%
		♀	8	2		1	4			15			
	7—14 歳	♂	4	1		1	1	2		9	21		
		♀	7	2		1	1	1		12			
青年期	15—20 歳	♂	22	1	5	6	3		3	40	75	139	40.1%
		♀	13	5	7	7	1	2	1	35			
	21—25 歳	♂	20	2	6	10			4	42	64		
		♀	5		3	4		1	9	22			
中年期	26—30 歳	♂	23	1	1	3		1	8	37	59		
		♀	11	2	1	2		2	4	22			
	31—40 歳	♂	19	1	2	3		2	3	30	43	126	36.1%
		♀	8			3		2		13			
	41—50 歳	♂	6	1		2			1	10	14		
		♀	3						1	4			
老齡期	51 歳以上	♂	17			2			4	23	33	33	9.4%
		♀	7			2		1		10			
計		♂	126	7	14	28	12	5	23	215	(全結核屍 349 例 ハ全解剖屍 1480 例 ニ對シ 23.6% ナリ)		
		♀	62	11	11	20	6	9	15	134			
		計	188	18	25	48	18	14	38	349			
全結核屍ニ對シ			53.8%	5.1%	7.1%	13.7%	5.1%	4.5%	10.3%				

上記ノ表ニ據リ剖檢屍1480例ヨリ初期變化群以上ノ結核性變化ヲ認ムル場合ヲ結核屍トスレバ349例即チ23.6%ニ於テ認メ、病變占居ノ部位的關係ニヨリテ大體7型ニ分類シ得ラルガ如シ。勿論症例ニヨリ何レノ病型ニ加フベキカ甚ダ疑ハシキ所謂移行型ナキニ非ザルモ大體肺結核型、腸結核型、肺及腸結核型、漿膜結核型、急性粟粒結核型、臟器結核型、全身結核型（混合型）ニ分類シ得。各病型中最モ多數ニ認メラレタルハ肺結核型ニシテ漿膜結核型之ニ次ギ全身結核型、肺及腸結核型、腸結核型、急性粟粒結核型、臟器結核型ノ順ナリ。

肺結核型ハ總數188例（♂126例♀62例）全結核屍ニ對シ53.6%ニシテ男子ハ女子ヨリ多ク、青年期最モ多ク 中年期ノ26—30歳之ニ次ギ小兒期ノ前半ニ於テ乾酪性肺炎多ク之ヨリ逐次空洞化ヲ呈セル者多ク20歳前後ノ女子ニ最モ多キガ如シ。老齡期ニテハ陳舊性石灰硬化ノ傾向強ク限局性ニシテ空洞化乾酪性肺炎ハ著シク

少數ナル如シ。漿膜結核型ハ總數48例（♂28例♀20例）13.7%ニシテ青年期最モ多ク 中年期之ニ次ギ腹膜ノ増殖性變化顯著ニシテ其多クハ肋膜炎ヲ伴ヒ稀ニ心囊腦膜ノ結核ヲ隨伴セリ。全身結核型ハ總數38例（♂23例♀15例）10.8%ニシテ青年期ノ後半ヨリ 中年期ノ26—30歳ニ於テ著明ナリ。青年期ニハ肺結核型臟器結核型又ハ是等病型ニ加フルニ漿膜結核型ヲ以テシ 中年期以後ハ 毎常漿膜結核型ヲ伴フ者多シ。肺及腸結核型ハ總數25例（♂14例♀11例）7.1%ニシテ青年期ニ多シ。腸結核型ハ總數18例（♂7例♀11例）5.1%ニシテ青年期ノ前半ニ於ケル女子ニ多シ。急性粟粒結核型ハ總數18例（♂12例♀6例）5.1%ニシテ小兒期ノ前半最モ多ク青年期ノ前半之ニ次ゲリ。臟器結核型ハ總數14例（♂5例♀9例）4.5%ニシテ小兒期ノ後半ヨリ青年期及ビ 中年期ノ前半ニ認メ稀ニ老齡期ニモ認メ發見ノ頻度ニ一定ノ關係ナシ。次ニ病型ヲ主トシ逐齡的ニ總括スルニ次ノ如シ

第 11 表 各期ニ於ケル病型ノ頻度表

型	性	小 兒 期		青 年 期		中 年 期		老 齡 期	
肺結核型	♂	9	小兒期50例ニ對シ	42	青年期139例ニ對シ	48	中年期126例ニ對シ	17	老齡期33例ニ對シ
	♀	15		18		22		7	
	計	24		60		70		24	
			48%		42.8%		60.3%		72.7%
腸結核型	♂	1	同	3	同	3	同		
	♀	4		5		2			
	計	5		8		5			
			10%		5.7%		4.2%		
肺及腸結核型	♂			11	同	3	同		
	♀			10					
	計			21					
					15%		3.4%		
漿膜結核型	♂	2	同	16	同	8	同	2	同
	♀	2		11		5		2	
	計	4		27		13		4	
			8%		19.5%		11.2%		12.1%
急性粟粒結核型	♂	9	同	3	同				
	♀	5		1					
	計	14		4					
			28%		2.8%				
臟器結核型	♂	2	同	3	同	3	同		同
	♀	1		3		4		1	
	計	3		3		7		1	
			6%		2.1%		5.5%		3%
全身結核型	♂			7	同	12	同	4	同
	♀			10		4		1	
	計			17		16		4	
					12.2%		12.7%		12.1%

上記ノ表一ヨリ各期ニ於ケル病型ノ頻度ハ各期結核屍數ニ對シ次ノ如キ關係ヲ示シ各期ニ於テ毎常上記各病型ヲ認メシメザル事ヲ認ム。

小兒期 (50例)	肺結核型	48%
	急性粟粒結核型	26%
	腸結核型	10%
	漿膜結核型	8%
	臟器結核型	6%
青年期(139例)	肺結核型	42.8%
	漿膜結核型	19.5%
	肺及腸結核型	15.0%
	全身結核型	12.5%
	腸結核型	5.7%
	急性粟粒結核型	2.8%
	臟器結核型	2.1%
中年期(126例)	肺結核型	60.3%
	全身結核型	12.7%
	漿膜結核型	11.2%
	臟器結核型	5.5%
	腸結核型	4.2%
老齡期 (33例)	肺結核型	72.7%
	全身結核型	12.1%
	漿膜結核型	12.1%
	臟器結核型	3.0%

如上ノ關係ヨリ次ノ如キ事實ヲ總括考按シ得ベシ。

第一項 小兒期

小兒期ニ於テハ肺結核型最モ多ク急性粟粒結核型腸結核型之ニ次ギ漿膜結核型臟器結核型最モ少シ。之小兒期ニ於テハ肺ノ初感染最モ多キガ故ニテ急性粟粒結核型就中所謂腦膜炎型粟粒結核ノ多キハ初感染後過敏期ニ入りテ血行性播種ヲ來シ易キガタメナルベシ。腸結核型ノ之ニ次ギテ多キ所以ハ肺感染後結核菌ノ嚥下セラレテ淋巴裝置ノ發育佳良ナル腸粘膜ヲ侵シ易キガタメト一部又食餌性ニ感染ノ機會多キモ亦多少其原因タル可キカ。漿膜結核型トシテ小兒期ニ於テハ腦膜ヲ侵サル、者多ク心囊肋膜腹膜ハ比較的稀有ナルベシ。而シテ腦膜ニ來ル場合ノ多クハ急性全身粟粒結核ノ一分症トシテ來ル者ノ如シ。元來腹部ニ於ケル漿膜結核ノ原因ノ多クハ

腸間膜淋巴腺結核ニ歸スベク該淋巴腺結核ノ侵サル、以前ニ於テ氣管枝淋巴腺結核ヨリノ淋巴行性乃至血行性播種ニヨリ肺又ハ腦ニ於ケル粟粒結核ヲ惹起スル者ノ如シ。次ニ臟器結核型トシテ肺又ハ漿膜ニ著明ナル變化ナク單獨ニテ例之骨又ハ關節結核等ノ病變ノミテトレタル者少シ。臨牀上小兒期ニ骨關節ノ罹患率多キハ諸家ノ報告スル所ナルモ慢性內臟結核トシテ所謂比較的免疫期トシテ經過シ青年期ニ到リ務性變化ニ付ル、場合多キヲ以テ本期ニ是等臟器結核ノミニテ付ル、者比較的僅少ナル所以トナシ得可シ。而シテ本期ニ於テハ成人一見ル如キ肺及腸結核型、全身結核型ヲ認メズ。之小兒ニ於テハ抵抗少ク是等慢性ノ結核性變化ヲ示ス以前ニ於テ付ル、ガタメナルベシ。

要之余等ノ得タル小兒結核屍ハ生後 4 箇月ヨリ認メタルヲ以テ初感染ハ少クトモ生後少數ノ時日ニ於テ可能ナル可ク、肺又ハ腸結核型ハ初感染病竈又ハ原發群ノ蔓延ニヨリ、急性粟粒結核型、漿膜結核型、臟器結核型ハ初感染病竈ノ血行性又ハ淋巴行性播種ニヨリテ惹起セラレ、者ナルヲ以テ是等病型ノ年齡ノ關係ヨリ小兒期結核屍ノ多クハ Ranke, Aschoff, 緒方教授等ノ第二期ノ變化ニ相當スル者多ク就中小兒期後期ニ於テハ第三期慢性內臟結核型ニ一致スル所見ヲ認メタリ。

第二項 青年期

青年期ニ於テハ肺結核型最モ多ク漿膜結核型、肺及腸結核型、全身結核型ヲ主トナシ、腸結核型、急性粟粒結核型、臟器結核型比較的少數ナリ。Puhl ハ小兒期ノ後期ニ於テ慢性內臟結核多キニ關ハラズ肺結核型ハ青年期ニ及ビ急激ニ増加スル理由ヲ再感染ニ歸セリ。余等モ本期ニ於ケル肺結核ノ乾酪性肺炎空洞化ハ主トシテ肺尖部又ハ上葉ニ多キヨリ初感原發竈ト關係ナキ部位ニ於テ病變ヲ發現スル者或ハ再感染ニヨリテ發生スル者ナルベシト思考スル者ナリ。漿膜結核型ノ多キ所以ニ關シテハ本期ニ及ビテ腸間膜淋巴腺結核ノ內發性散種ニ歸スベク腹膜肋膜

結核多ク稀ニ心囊腦膜ニ併發スルモ腹膜最モ著明ニシテ増殖滲出性所見強シ。肺及腸結核型ノ多キハ腸結核ガ本期ニ及ビ割合ニ多キガ如ク腸ニ於ケル結核性變化ガ原發性又ハ續發性タルトヲ問ハズ多キガ故ナルベシ。全身結核型トシテ肺結核型臟器結核型又ハ之ニ加フルニ漿膜結核型ヲ以テセル二種ノ混合型ヲ認メタルハ小兒期ニ得タル臟器結核ガ完成シ同時ニ再感染ニヨル肺結核型ヲ混合シ或ハ更ニ内發性ニ漿膜結核ヲ發生セルニヨリ斯クノ如キ複雑セル變化ヲ惹起セルニ到ル者タルベシ。急性粟粒結核型又ハ臟器結核型ノ少キハ前記ノ事由ニヨリテ明カナル如ク結核ノ感染ガ本期ニ近ク發現スルカ若シクハ比較的免疫強キ場合ナルカノ何レカナリシナルベシ。

要之青年期ニ於ケル病型ハ主トシテ Ranke, Aschoff, 緒方教授等ノ再感染期若シクハ肺結核期ニ一致シ加フルニ慢性内臟結核期ニ一致スト言フベシ。

第三項 中年期

中年期ニ於テハ肺結核型、全身結核型、漿膜結核型ヲ主トナシ臟器結核型、腸結核型、肺及腸結核型ハ極メテ稀ニシテ急性粟粒結核型ナシ。全身結核ヲ有シ急性粟粒結核ヲ併發シ就中腦膜ニ於ケル所見著シキ者アルモ小兒期又ハ青年期ニ於ケル者ト全ク病變分布ヲ異ニスルヲ以テ全

身結核型ニ包含セシム。肺結核型ノ多キハ再感染又ハ青年期ニ於ケル病變ガ進行性轉機ヲトリタルタメニシテ空洞化著シク増殖滲出性機轉ヲトル者多キガ如シ。全身結核型殊ニ肺結核型漿膜結核型臟器結核型ハ混合型多キハ既ニ青年期ニ於テ臟器結核型ニ肺結核型ヲ併發シ更ニ内發性散種ニ由リ漿膜結核ヲ惹起スル者多キガ故ナルベシ。又漿膜結核型ハ腹膜ノ増殖性變化竝ニ肋膜ノ混合型多ク心囊腦膜ハ極メテ稀ナリ。即チ本期ノ病型ハ慢性内臟結核期竝ニ肺結核期ニ於テ獲得セル病變ガ完成シ撈性變化ヲ來セル者多ク臟器結核型腸結核型肺及腸結核型ノ多クハ他臟器ノ變化ヲ隨伴スル場合多キヲ以テ其發現僅少ナル如シ。

要之中年期ノ結核屍ノ主ナル者ハ肺結核型全身結核型漿膜結核型ニシテ Ranke, Aschoff, 緒方教授等ノ肺結核期又ハ之ト慢性内臟結核期ノ混合型ニ一致ス。

第四項 老齡期

老齡期ニ於テハ肺結核型全身結核型漿膜結核型稀ニ臟器結核型ヲ認メ陳舊性治癒性ノ變化強ノ廣汎性ニ増殖滲出スル傾向少シ。而シテ其多クハ肺結核型ナルガ如シ。

以上余等ノ調査ヲ總括考按シ大體次章ノ如キ結論ヲ得タリ。

第五章 結 論

1. 本教室ニ於テ最近 10 年間ニ於ケル結核屍(初期變化群以上ノ變化)ハ 349 例(男子 215 例女子 134 例)ニシテ全解剖屍 1480 例ニ對シ 23.6 %ナリ。

2. 結核屍ヲ逐齡的ニ小兒期(14 歳以下)青年期(15—25 歳)中年期(26—50 歳)老齡期(51 歳以上)ニ分類スルニ各期ニ分類セル剖檢屍數ニ對シ小兒期結核屍ハ 27.1%、青年期結核屍ハ 50.1%、中年期結核屍ハ 19.6%、老齡期結核屍ハ 9.2%ニシテ青年期以後ヲ成人期トスレバ成人結核屍ハ 22.3%ナリ。

3. 結核屍ヲ病變分布ノ占居部位ノ關係ニヨリ次ノ 7 型ニ分類シ全結核屍ニ對スル比率ヲ示セバ次ノ如シ。

肺結核型(肺結核及其續發性變化)……………53.8%
 腸結核型(原發性腸結核及其續發性變化)… 5.1%
 肺及腸結核型(肺及腸結核ノ混合型)……… 7.1%
 漿膜結核型(腹膜肋膜心囊腦膜結核)………13.7%
 急性粟粒結核型(諸種内臟粟粒結核)……… 5.1%
 臟器結核型(泌尿生殖器腸骨關節結核)……… 4.0%
 全身結核型(肺腸結核臟器結核漿膜結核)……10.8%

4. 小兒期結核屍ハ全結核屍ニ對シ 14.3%ニ

シテ肺結核型(同期解剖屍ニ對シ48%)急性粟粒結核型(28%)多ク、腸結核型(10%)漿膜結核型(8%)臟器結核型(6%)之ニ次ギ肺及腸結核型並ニ全身結核型ヲ認メズ。

5. 青年期結核屍ハ全結核屍ニ對シ40.1%ニシテ肺結核型(42.8%)漿膜結核型(19.5%)肺及腸結核型(15%)全身結核型(12.5%)多ク、腸結核型(5.7%)急性粟粒結核型(2.8%)臟器結核型(2.1%)ハ之ニ次ゲリ。

6. 中年期結核屍ハ全結核屍ニ對シ36.1%ニシテ肺結核型(60.3%)全身結核型(12.7%)漿膜結核型(11.2%)多ク、臟器結核型(5.5%)腸結核型(42.0%)肺及腸結核型(3.4%)ハ少數ニシテ急性粟粒結核型ヲ缺ケリ。

7. 老齡期結核屍ハ全結核屍ニ對シ9.4%ニシテ肺結核型(72.7%)最モ多ク全身結核型、漿膜結核型(各12.1%)臟器結核型(3%)少數認ムルモ肺及腸結核型腸結核型急性粟粒結核型ヲ認メズ。

8. 小兒期ノ前期(1—6歳)ハ肺結核型又ハ急性粟粒結核型多キヲ以テ Ranke, Aschoff, 緒方教授ノ第二期過敏期ニ一致シ後期(7—14歳)ハ特ニ臟器結核型ヲ認ムルニヨリ第三期慢性内臟結核期ニ一致ス。

9. 青年期ニ於テハ肺結核型漿膜結核型肺及腸結核型全身結核型多キヲ以テ第三期肺結核期再感染期又ハ慢性内臟結核期ニ肺結核期ノ併發セル所見ヲ認ム。

10. 中年期ニ於テハ肺結核型全身結核型多ク青年期ニ於ケル病變ノ慢性ニ増殖進行セル所見ニ一致ス。

11. 小兒期青年期ハ進行性増殖滲出機轉ヲ示シ中年期ハ慢性増殖性機轉ヲ示シ老齡期ハ陳舊性治癒性機轉ノ傾向多キガ如シ。

本稿ヲ終ルニ臨ミ恩師木村教授ノ御指導並御校閱ノ勞ヲ深謝ス。

引用文獻ハ本誌第13卷第4號[結核ノ臟器分布ニ關スル綜説]ニ明カナリ。